

令和3(2021)年4月15日

報道機関各位

都市建設部 都市計画課

自動運転実証実験候補箇所の選定について

現在、国は、令和7(2025)年を目途に限定地域(過疎地等)での無人自動運転移動サービス<レベル4(自動運転車両の走行環境が整っている一定の場所であれば、全ての運転動作をシステムが行うことができるレベル)>の全国普及等を目指し、社会全体での連携体制の整備を進めているところです。

これらを背景に、栃木県は、県内の公共交通における自動運転システム導入の促進を図るため、令和2(2020)年度から令和5(2023)年度までの期間で自動運転に係る実証実験を予定しており、県内25市町に対し、実証実験に係る意向調査を実施しました。

そこで、本市では、中心市街地の玄関口となるJR足利駅と点在する本市固有の歴史・文化、観光資源を有機的に結び合わせ、歩いて楽しい、歩きたくなる都市空間を創出するため、中心市街地の回遊性をより向上させる移動手段の確保を目的として、本市が計画した自動運転実証実験を栃木県に対し提案していました。

この度、県内18市町40箇所の提案の中から、実験候補箇所に10箇所が選定され、その中で、本市の自動運転実証実験が令和4(2022)年に実施される候補箇所に選定されましたのでお知らせします。

記

1 自動運転実証実験の概要

(1) ルート

今後、JR足利駅、足利学校、鏝阿寺、太平記館、まちなか遊学館などを関係するルートを選定します。

(2) 想定車両

グリーンスローモビリティ(電動かつ時速20km未満で公道を走る4人乗り以上の車両)を想定しています。

2 今後の予定

令和3(2021)年度 ルート選定等詳細な検討並びに警察、JR東日本、地元自治会及び商店会等関係機関との協議

令和4(2022)年度 実証実験の実施

所管課	発表者		担当者		
	職名	氏名	職名	氏名	電話
都市計画課	課長	大竹 一弘	主幹	齋藤 修一	0284-20-2167

栃木県ABCプロジェクト 全体計画 (R2年度～R5年度)

R3(2021)年3月25日

栃木県県土整備部交通政策課

1. 実験候補箇所の選定方針等 (1) 全体計画の検討手順

1) 実験候補箇所を地域課題、自治体意向調査等を基に抽出し、導入サービスを検討

	対象	実施内容	アウトプット
①地域課題の把握	25市町	1) 交通に係る課題を総合計画等より抽出し、生活・産業・観光等の観点で課題・ニーズを整理 2) 地域特性、交通状況、課題・ニーズをカテゴリー化	カテゴリー別地域特性、交通状況、課題・ニーズ
②自治体意向調査	25市町	1) サービス導入意向について、県内全市町へアンケート調査を実施 2) 市町の課題と導入意向、導入したいサービスの内容を整理	市町導入意向一覧
③実験候補箇所の選定	10か所程度	1) 候補箇所の課題・導入効果を検討 2) 課題や目的を代表する実験候補箇所を選定	実験候補箇所選定表 (課題、導入効果、類似事例整理表)
④導入サービスの検討	10か所程度	1) 全国類似事例調査(資料収集・聞き取り調査)を参考に、交通及び道路の状況や交通事業者の将来的な運行可能性等を確認 2) 確認結果を踏まえ、各箇所の実験概要を検討	箇所別実験概要(素案)

1. 実験候補箇所の選定方針等 (2) 自治体意向調査等

- 1) R3年度以降の実験候補箇所を選定するため、県内25市町に対する意向調査等を実施
- 2) 提案箇所数は、18市町40か所

■提案箇所内訳(追加ヒアリング後)

地域特性分類	提案箇所数
中山間地域	5か所
観光地	16か所
市街地	19か所
計	40か所

【参考】市町意向調査様式

調査票	
自動運転の実証実験意向等に関する調査	
自治体名	
部署名	
担当者	
電話番号	
<p>◆栃木県では、R7年に国が目指す無人自動運転移動サービスの全国普及に向けて、公共交通における無人自動運転の導入を促進するため、R2～R5年度に県が全額費用負担し、県内各地で実証実験を行います。</p> <p>◆本アンケート結果を参考に、実証実験の候補箇所を選定したいと考えています。</p>	
<p>問1 県が行う実証実験で自動運転車両を走らせてみたい場所がありますか。</p> <p>1. ある→問2へ 2. ない→問3へ</p> <p style="text-align: right;">回答 <input type="text"/></p>	
<p><問1で「1. ある」と回答した場合></p> <p>問2 どこに自動運転車両を走らせてみたいですか。地区名や区間などを教えてください。地図でルートを示していただいても構いません。</p> <p>※記載は1シートにつき1箇所としてください。希望場所が複数ある場合は、別紙に2箇所目以降を記載してください。</p>	
場所	
<p>(任意) 自動運転車両を走らせるとした場合の、具体的な内容(目的)や希望時期などがあれば、分かる範囲で結構ですので教えてください。</p>	
内容(目的)	
時期	
→回答後、問3へ	
<p>問3 その他、補足等があればご記入ください。</p> <p><input type="text"/></p>	
設問は以上です。ご協力ありがとうございました。	

1. 実験候補箇所の選定方針等 (3) 実験候補箇所の選定方針

- 1) 実験候補箇所の選定に当たっては、県内各地域への展開可能性、地理的なバランスやPR効果、実現可能性等を考慮
- 2) 今後、提案市町等への追加ヒアリングを実施の上で、実験候補箇所10か所程度を選定し、今年度中に全体計画を策定

県内路線における自動運転バスの本格運行を見据え、
県内各地域の課題を踏まえた実証実験の実施が必要

【実験候補箇所の選定方針】

- ①地域特性分類や地域課題に応じ、**県内各地域への展開可能性**を考慮
- ②県内全域において機運醸成を図るため、**地理的なバランス、PR効果**等を考慮
- ③交通事業者の意向等を踏まえた**実現可能性**を考慮

- 選定方針に基づき、提案市町等に追加ヒアリングを実施し、実施候補箇所10か所程度を選定
- R2年度中に全体計画(ロードマップ)を策定

2. 実験候補箇所等の選定 (1) 実験候補箇所の選定

1) 実験候補箇所として10か所を選定(中山間地域2か所、観光地4か所、市街地4か所)

地域特性 分類	実験候補箇所		選定の主なポイント
	市町	箇所	
中山間地域	茂木町	道の駅もてぎ～茂木駅～ ふみの森もてぎ	R2年度実験箇所(R3年6月に延期予定)
	那須町	黒田原駅周辺	まちづくりと連携した主要拠点間の周遊性向上、関係人口や交流人口の創出や拡大等
観光地	那須塩原市	塩原温泉郷	観光地における二次交通の充実や周遊性向上、環境に配慮した移動手段の導入可能性、観光客へのPR効果等
	壬生町	道の駅みぶ	公園等のアクセス向上や周遊性向上、新たな人流の可能性等
	宇都宮市	西川田駅～県総合運動公園	イベント時における移動手段の確保や公共交通の利用促進、国体開催に合わせた来場者へのPR効果等
	日光市	奥日光低公害バス路線	観光地における二次交通の充実、ビジネスモデルの検証、観光客へのPR効果、自動運転に適した走行環境等
市街地	小山市	小山駅～白鷗大学	市街地における周遊性向上、通学手段の確保、ビジネスモデルの検証、新幹線駅でのPR効果等
	足利市	足利学校周辺	市街地における周遊性向上やにぎわいの創出、歩車共存空間の再配分、MaaSへの発展可能性等
	下野市	自治医大駅～自治医大病院	医療施設への移動手段の確保、ビジネスモデルの検証、自動運転に適した走行環境等
	芳賀町	芳賀工業団地	多様な交通モードの連携、通勤手段の確保、ビジネスモデルの検証、LRTとの連携によるPR効果等

2. 実験候補箇所等の選定 (2) 追加候補箇所の選定

- 1) 実験候補箇所での実施が困難になる場合等も想定し、追加候補箇所として3か所を選定（中山間地域1か所、観光地1か所、市街地1か所）

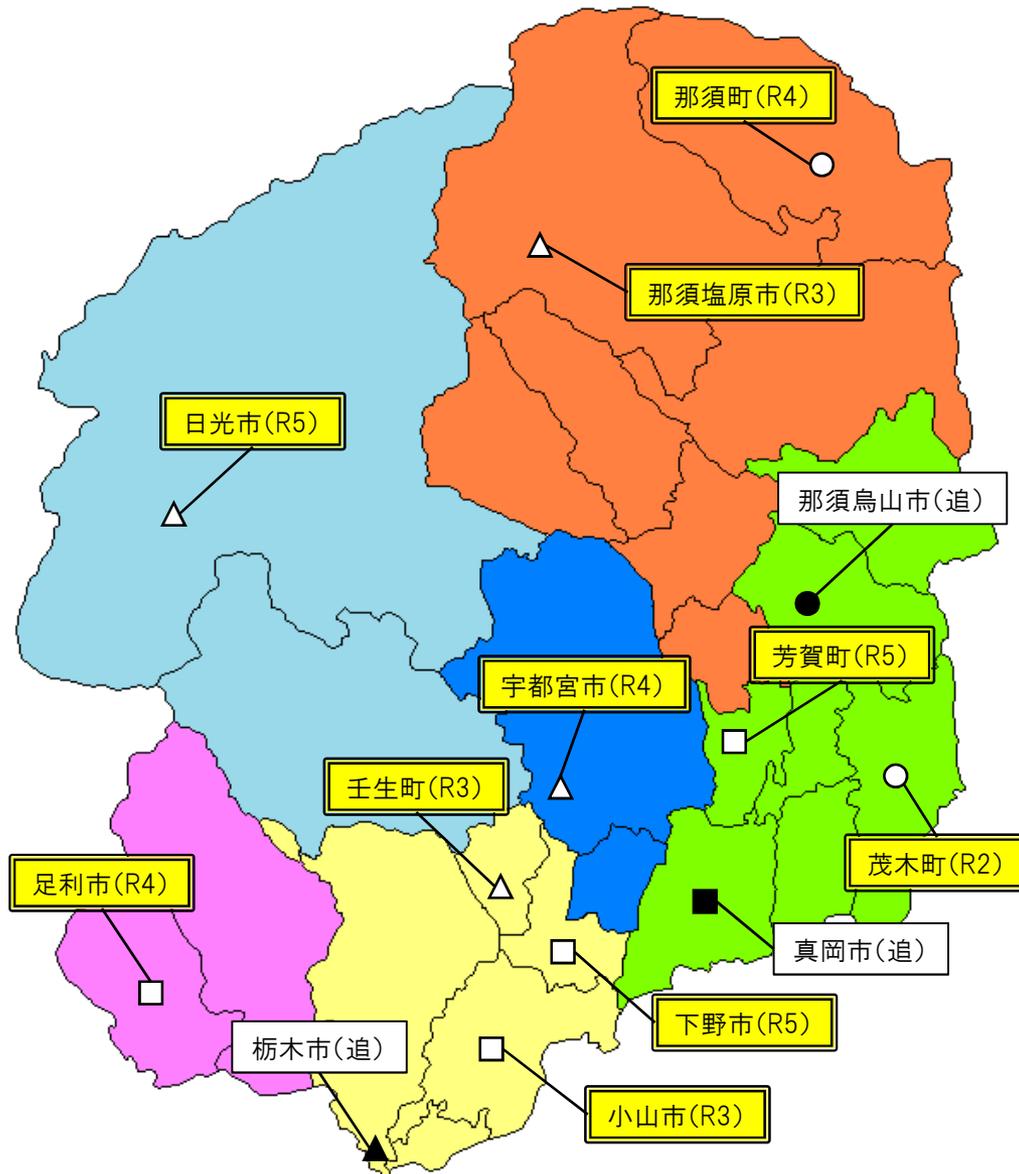
地域特性分類	追加候補箇所		選定の主なポイント
	市町	箇所	
中山間地域	那須烏山市	大金駅～藤田地区	中山間地域における移動手段の確保、鉄道駅のラストマイル対策等
観光地	栃木市	渡良瀬遊水地	イベント時における移動手段の確保、環境に配慮した移動手段の導入可能性、国体開催に合わせた来場者へのPR効果等
市街地	真岡市	真岡駅周辺	市街地の周遊性向上やにぎわいの創出、鉄道駅からのラストマイル対策等

【参考】 R2年度第2回栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会議事概要（抜粋）

- ・ リソースの制約がある中で、モデル的に実験候補箇所を10か所程度に絞り込むのは理解できる。ただ、できるだけ多くの箇所で実施するのが望ましいので、選定市町以外でも何らかの形で取組を継続できれば良い。
- ・ コロナの感染拡大が続いているが、実証実験ができることを信じて、バランス良く進めていただきたい。その際、例えば、候補箇所で実証実験ができない場合も想定し、バックアップやオプションとして他の箇所もリストアップしておいた方が良いかもしれない。

2. 実験候補箇所等の選定 (3) 地域別選定状況

1) 地理的バランスも考慮し、地域ごとの提案状況に応じて実験候補箇所等を選定



凡例

- …中山間地域
- △…観光地
- …市街地
- 白色…実験候補箇所
- 黒色…追加候補箇所

※ 地域別選定状況

地域	提案箇所数 ※	実験 箇所数※	追加候補 箇所数
県北	9	2	0
県西	1	1	0
県央	6	1	0
県東	9	2	2
県南	13	3	1
安足	3	1	0
合計	41	10	3

※ 茂木町で実施するR2年度実験箇所を含む。

3. ロードマップ

1) 事業年度については、実験の内容、準備に要する期間等を考慮して決定

事業年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	《参考》 追加候補箇所	
地域 特性 分類	中山間地域	茂木町 (道の駅もてぎ～茂木駅 ～ふみの森もてぎ)		那須町 (黒田原駅周辺)		那須烏山市 (大金駅～藤田地区)	
		市街地の周遊性向上 高齢者の移動手段確保		主要拠点間の周遊性向上 関係人口の創出等		中山間地域の移動手段確保 鉄道駅のラストマイル対策	
	観光地		那須塩原市 (塩原温泉郷)	宇都宮市 (西川田駅～ 県総合運動公園)	日光市 (奥日光低公害バス 路線)	栃木市 (渡良瀬遊水地)	
			観光地の二次交通充実 観光地の周遊性向上	イベント時の移動手段確保・ 公共交通利用促進等	観光地の二次交通充実 ビジネスモデル検証	イベント時の移動手段確保・ 公共交通利用促進等	
			壬生町 (道の駅みぶ)				
			公園等のアクセス向上・ 周遊性向上等				
	市街地		小山市 (小山駅～白鷗大学)	足利市 (足利学校周辺)	下野市 (自治医大駅～ 自治医大病院)	真岡市 (真岡駅周辺)	
			市街地の周遊性向上 通学手段の確保	市街地の周遊性向上 歩車共存空間の再配分	医療施設のアクセス向上 ビジネスモデルの検証	市街地の周遊性向上 鉄道駅のラストマイル対策	
					芳賀町 (芳賀工業団地)		
					多様な交通モードの連携 ビジネスモデルの検証		
	自動運転レベル (想定)		レベル2	(技術開発の進捗、現場の状況等を見ながらレベルアップ)		レベル4	
	備考			東京オリンピック・ パラリンピック	とちぎ国体・大会		

5. 実験候補箇所 (1) R2年度 茂木町・道の駅もてぎ～茂木駅～ふみの森もてぎ

生活

産業

観光

公共交通

人口減少・少子高齢化

施設アクセス向上

自動車依存脱却

土地利用活用

工業団地活用

農業生産推進

特産品販売促進

中心市街地活性化

観光客増加

観光資源活用

交通円滑化

観光PR

公共交通空白・不便改善

公共交通維持

中山間地域

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：道の駅もてぎ、茂木駅、ふみの森もてぎ
- ② 関係者：道の駅管理者、鉄道事業者、バス事業者
- ③ 想定車両：マイクロバス
- ④ 実験時期：R2年度（R3年6月に延期予定）



観光地



市街地

(2) 背景

- ① 人口減少・高齢化が急速に進行しており、R22年には人口が半減、高齢化率が約6割
- ② 中心市街地には「茂木駅」、「ふみの森もてぎ」、商店街等が所在するが空き店舗等が増加
- ③ 「ツインリンクもてぎ」、「道の駅もてぎ」等が整備されており、町外からも多くの観光客が来訪
- ④ 拠点施設や観光資源を結ぶ公共交通が不足し、イベント開催時等に交通渋滞が発生するほか、高齢者の日常生活における移動手段が不足

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	市街地における周遊性向上 高齢者の移動手段の確保
当該地域での発展可能性	各施設へのアクセス向上 中山間地域における貨客混載
PR効果	道の駅もてぎ、真岡鐵道等との連携によるPR
実現可能性	路線バス運行

5. 実験候補箇所 (2) R3年度 那須塩原市・塩原温泉郷

生活		産業					観光			公共交通			
人口減少・少子高齢化	施設アクセス向上	自動車依存脱却	土地利用活用	工業団地活用	農業生産推進	特産品販売促進	中心市街地活性化	観光客増加	観光資源活用	交通円滑化	観光PR	公共交通空白・不便改善	公共交通維持

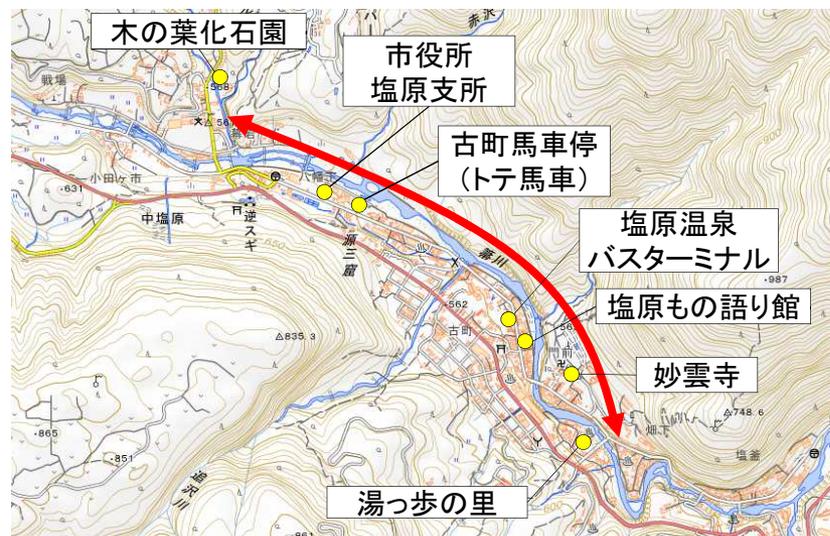
中山間地域

観光地

市街地

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：塩原温泉バスターミナル、各温泉施設、各観光施設
- ② 関係者：バス事業者、観光協会、旅館協同組合、市観光局
- ③ 想定車両：グリーンシートバス
- ④ 想定時期：R3年度（R3年9月～10月頃）



(2) 背景

- ① 開湯1200年を誇る塩原温泉郷は、紅葉シーズンを中心に、年間210万人以上の観光客が来訪
- ② 首都圏からの来訪者は、自家用車利用が中心
- ③ 温泉街の道路幅員は狭く、駐車場容量が不足
- ④ コミュニティバスが走行しているものの、運行本数が少なく、また、観光利用に特化していないなど、温泉街を周遊するための二次交通の充実が課題
- ⑤ R元年に『那須塩原市「CO₂排出量実質ゼロ」宣言』を行い、環境に配慮した公共交通整備を検討

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	観光地における二次交通の充実 観光地における周遊性向上
当該地域での発展可能性	観光地の魅力向上 環境に配慮した移動手段の導入 中山間地域における貨客混載
PR効果	観光シーズン等の観光客へのPR
実現可能性	コミュニティバス運行 トテ馬車運行（休業中）

5. 実験候補箇所 (2) R3年度 壬生町・道の駅みぶ

生活		産業					観光			公共交通			
人口減少・少子高齢化	施設アクセス向上	自動車依存脱却	土地利用	工業団地活用	農業生産推進	特産品販売促進	中心市街地活性化	観光客増加	観光資源活用	交通円滑化	観光PR	公共交通空白・不便改善	公共交通維持

中山間地域

観光地

市街地

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：わんぱく公園、みぶハイウェイパーク、壬生町おもちゃ博物館、壬生町総合公園
- ② 関係者：各施設管理者、高速道路管理者
- ③ 想定車両：小型バス
- ④ 想定時期：R3年度（R4年2月～3月頃）



(2) 背景

- ① 道の駅みぶは、わんぱく公園、みぶハイウェイパーク、壬生町おもちゃ博物館、壬生町総合公園等の施設で構成される52.4ヘクタールの大規模な道の駅
- ② わんぱく公園をはじめ各施設では、子どもから年配の方まで幅広い年齢層が利用
- ③ わんぱく公園等とみぶハイウェイパークの間に県道が走っており、相互利用による来場者アップが課題

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	公園等のアクセス向上 近隣施設間における周遊性向上
当該地域での発展可能性	新たな人流（高速道路利用者のわんぱく公園への立寄り等）の可能性
PR効果	各施設や高速道路の利用者へのPR
実現可能性	各施設が近接

5. 実験候補箇所 (2) R3年度 小山市・小山駅～白鷗大学

生活		産業				観光				公共交通			
人口減少・少子高齢化	施設アクセス向上	自動車依存脱却	土地利用	工業団地活用	農業生産推進	特産品販売促進	中心市街地活性化	観光客増加	観光資源活用	交通円滑化	観光PR	公共交通空白・不便改善	公共交通維持

中山間地域

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：小山駅、市役所、城山公園、白鷗大学
- ② 関係者：鉄道事業者、バス事業者、白鷗大学、公園管理者
- ③ 想定車両：中型バス
- ④ 想定時期：R3年度（R3年11月～12月頃）



観光地

市街地



(2) 背景

- ① 白鷗大学では、小山駅西口～大行寺キャンパスの間でスクールバスを運行
- ② 城山公園では、再整備が進められており、小山駅周辺のまちづくり等との連携による市街地の周遊性の向上を期待
- ③ R3年5月に市役所新庁舎の開庁が予定される中、小山駅～市役所の間でのバス運行の要望があるが、運転手確保が困難

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	市街地における周遊性向上 通学手段の確保 鉄道駅からのラストマイル対策 ビジネスモデルの検証
当該地域での発展可能性	大学の魅力度向上
PR効果	住民や来訪者へのPR 新幹線駅でのPR
実現可能性	スクールバス運行

5. 実験候補箇所 (3) R4年度 那須町・黒田原駅周辺

生活

産業

観光

公共交通

人口減少・少子高齢化

施設アクセス向上

自動車
依存脱却土地
利活用工業団地
活用農業生産
推進特産品
販売促進中心
市街地
活性化観光客
増加観光資源
活用交通
円滑化

観光PR

公共交通
空白・
不便改善公共交通
維持

中山間地域

観光地

市街地

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：黒田原駅、まちなか広場、まちづくりセンター、まちの駅、町役場
- ② 関係者：鉄道事業者、バス事業者、まちづくり推進協議会
- ③ 想定車両：グリーン号-ビリティ
- ④ 想定時期：R4年度



(2) 背景

- ① 黒田原駅前は、町の主要拠点として、公共施設、商業施設等が集積
- ② 空き店舗の増加、後継者不足等により、若者を中心に転出超過が続き、H10年度からの20年間で人口は約32%減少
- ③ 一方で、近年、黒田原駅前を中心に特色ある活動が活発化しており、R元年度には、町とまちづくり推進協議会が連携し、「黒田原駅前まちづくりビジョン」を策定

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	中山間地域における周遊性向上 中山間地域におけるにぎわいの創出
当該地域での発展可能性	多様な交通モードの連携 関係人口や交流人口の創出や拡大
PR効果	地域住民や来訪者へのPR
実現可能性	官民連携により黒田原駅前における各種まちづくり活動が進行

生活		産業					観光			公共交通			
人口減少・少子高齢化	施設アクセス向上	自動車依存脱却	土地利用	工業団地活用	農業生産推進	特産品販売促進	中心市街地活性化	観光客増加	観光資源活用	交通円滑化	観光PR	公共交通空白・不便改善	公共交通維持

中山間地域
観光地
市街地

- ### (1) 実験概要
- ① 主要拠点：西川田駅、県総合運動公園
 - ② 関係者：鉄道事業者、バス事業者、公園管理者
 - ③ 想定車両：グリーンシートリテイ、小型バス
 - ④ 想定時期：R4年度



- ### (2) 背景
- ① R4年度に開催予定のとちぎ国体・大会において、県総合運動公園は国体のメイン会場
 - ② R2年7月に新スタジアムが完成し、県内におけるスポーツ推進拠点として今後更なる活用が期待
 - ③ 鉄道駅に近接し、来場時における公共交通の利用促進、公共交通と施設利用との連携等を期待
 - ④ R4年に開催されるとちぎ国体のメイン会場であり、国体開催時に合わせた実証実験によるPR効果大

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	イベント時における移動手段の確保 鉄道駅からのラストマイル対策
当該地域での発展可能性	イベント時における公共交通の利用促進及び交通渋滞の緩和 MaaS（鉄道、シェアサイクル、公園内施設等との連携）
PR効果	国体開催に合わせた来場者へのPR
実現可能性	距離が短く、道路形状がシンプル 周辺で路線バス運行

5. 実験候補箇所 (3) R4年度 足利市・足利学校周辺

生活

産業

観光

公共交通

人口減少
・少子
高齢化施設
アクセス
向上自動車
依存脱却土地
利活用工業団地
活用農業生産
推進特産品
販売促進中心
市街地
活性化観光客
増加観光資源
活用交通
円滑化

観光PR

公共交通
空白・
不便改善公共交通
維持

中山間地域

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：足利駅、鑢阿寺、足利学校、太平記館、まちなか遊学館
- ② 関係者：鉄道事業者、観光協会、各施設管理者
- ③ 想定車両：グリーン号-EVリテイ
- ④ 想定時期：R4年度



観光地



市街地

(2) 背景

- ① 中心市街地には、国宝の鑢阿寺、日本遺産の史跡足利学校など、多くの歴史的観光資源が点在する一方で、駅等からアクセスする移動手段が不足
- ② 自家用車中心のまちづくりにより中心市街地の衰退が進行し、自動車に過度に依存しないまちづくりが課題
- ③ 歩いて楽しいまちづくりを推進するため、魅力ある歩行者空間の整備と共に、周遊性を高める移動手段の確保を検討

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	市街地における周遊性向上 市街地におけるにぎわいの創出 歩車共存空間の再配分 鉄道駅からのラストマイル対策
当該地域での発展可能性	MaaS（鉄道、観光施設、商店街、あしかがフラワーパーク等との連携）
PR効果	住民や観光客へのPR
実現可能性	観光施設等が近接

5. 実験候補箇所 (4) R5年度 日光市・奥日光低公害バス路線

生活

産業

観光

公共交通

人口減少・少子高齢化

施設アクセス向上

自動車依存脱却

土地利用活用

工業団地活用

農業生産推進

特産品販売促進

中心市街地活性化

観光客増加

観光資源活用

交通円滑化

観光PR

公共交通空白・不便改善

公共交通維持

中山間地域

観光地

市街地

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：赤沼自然情報センター、戦場ヶ原、小田代原、西ノ湖、千手ヶ浜
- ② 関係者：日光自然博物館、バス事業者、国立公園管理者、国有林管理者
- ③ 想定車両：未定
- ④ 想定時期：R5年度



(2) 背景

- ① 国立公園内の二次交通の充実が全国的な課題
- ② 奥日光地区では、H5年に、一般車両の通行を規制し、国立公園で初めて低公害バスの運行を開始
- ③ 日光市内では、CASE事業を展開し、奥日光低公害バスをEV化
- ④ バス運転手高齢化等が進行する中、将来的な自動運転の導入可能性について調査・検討が必要

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	観光地における二次交通の充実 ビジネスモデルの検証
当該地域での発展可能性	国立公園の周遊性向上 国立公園の魅力向上
PR効果	観光シーズンの観光客へのPR
実現可能性	低公害バス運行 日光市道1002号線では一般車両の通行規制



出典：日光自然博物館HP

5. 実験候補箇所 (4) R5年度 下野市・自治医大駅～自治医大病院

生活

産業

観光

公共交通

人口減少
・少子
高齢化施設
アクセス
向上自動車
依存脱却土地
利活用工業団地
活用農業生産
推進特産品
販売促進中心
市街地
活性化観光客
増加観光資源
活用交通
円滑化

観光PR

公共交通
空白・
不便改善公共交通
維持

中山間地域

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：自治医大駅、自治医大病院
- ② 関係者：鉄道事業者、バス事業者、自治医大病院
- ③ 想定車両：中型バス
- ④ 想定時期：R5年度



(2) 背景

- ① 地域医療確保のため先駆的な役割を担う自治医大病院には、年間延べ62万人以上が通院
- ② 自治医大駅～自治医大病院の間では、路線バスが運行しており、1日当たり最大約50往復、年間15万人以上が利用
- ③ バス運転手不足の更なる深刻化が予測される中、既存バス路線の効率化等が課題

観光地

(3) 選定のポイント



市街地

他地域への
展開可能性

医療施設への移動手段の確保
ビジネスモデルの検証
鉄道駅からのラストマイル対策

当該地域での
発展可能性

医療施設のアクセス向上
自治医大駅～周辺住宅地の間にお
ける運行

PR効果

周辺住民や自治医大病院の外来
患者等へのPR

実現可能性

路線バス運行
距離が短く、道路形状がシンプル
路車協調システムの実証実験中

5. 実験候補箇所 (4) R5年度 芳賀町・芳賀工業団地

	生活		産業				観光				公共交通		
人口減少・少子高齢化	施設アクセス向上	自動車依存脱却	土地利用	工業団地活用	農業生産推進	特産品販売促進	中心市街地活性化	観光客増加	観光資源活用	交通円滑化	観光PR	公共交通空白・不便改善	公共交通維持

中山間地域

観光地

市街地

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：芳賀トランジットセンター（仮称）、芳賀工業団地
- ② 関係者：LRT事業者、バス事業者、タクシー事業者、工業団地内企業
- ③ 想定車両：未定
- ④ 想定時期：R5年度



(2) 背景

- ① R5年3月の開業を目指し、芳賀・宇都宮LRTの整備が進行中
- ② LRTとバス、タクシー等が連携した公共交通ネットワークの構築を図るため、バス路線再編や交通結節点整備を計画
- ③ 芳賀工業団地内では、通勤者等のニーズに応じ、芳賀TCを拠点とした循環系バス導入等を検討
- ④ 運転手不足等が進行する中、持続可能な地域公共交通を目指し、新技術の導入可能性を検討

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	多様な交通モードの連携 通勤手段の確保 ビジネスモデルの検証
当該地域での発展可能性	工業団地の利便性・魅力度向上 住居系市街地等への延伸
PR効果	LRTとの連携によるPR
実現可能性	LRT整備中 バス路線再編等を計画

6. 追加候補箇所 (1) 中山間地域 那須烏山市・大金駅～藤田地区

生活

産業

観光

公共交通

人口減少・少子高齢化

施設アクセス向上

自動車依存脱却

土地利用活用

工業団地活用

農業生産推進

特産品販売促進

中心市街地活性化

観光客増加

観光資源活用

交通円滑化

観光PR

公共交通空白・不便改善

公共交通維持

中山間地域

観光地

市街地

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：大金駅、公共施設、商業施設、医療施設
- ② 関係者：鉄道事業者、各施設管理者
- ③ 想定車両：グリーンローモビリティ、小型バス
- ④ 想定時期：未定



(2) 背景

- ① 那須烏山市では、H17年の市町村合併以降人口減少が続いており、R22年には、現在から約4割減少、高齢化率は約5割に達する見込み
- ② 持続可能なまちづくりを図るため、都市機能や居住機能の市街地への集約に加え、市街地と郊外集落を結ぶ公共交通ネットワークの形成を推進
- ③ 旧南那須町の中心であった大金駅周辺は、都市機能等の集約が進められる一方で、公共交通はJR烏山線とデマンド交通に限られ、郊外集落との間における移動手段の確保が課題

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	中山間地域における移動手段の確保 鉄道駅からのラストマイル確保
当該地域での発展可能性	中山間地域におけるにぎわいの創出 鉄道の利用促進 スクールバスの混乗化
PR効果	地域住民へのPR
実現可能性	スクールバス運行

6. 追加候補箇所 (2) 観光地 栃木市・渡良瀬遊水地

生活		産業				観光			公共交通				
人口減少・少子高齢化	施設アクセス向上	自動車依存脱却	土地利活用	工業団地活用	農業生産推進	特産品販売促進	中心市街地活性化	観光客増加	観光資源活用	交通円滑化	観光PR	公共交通空白・不便改善	公共交通維持

中山間地域

観光地

市街地

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：レンタサイクルセンター、中の島、ウォッチングタワー
- ② 関係者：渡良瀬遊水地管理者、施設管理者、バス事業者
- ③ 想定車両：グリーン号-EVリテイ
- ④ 想定時期：R4年度



(2) 背景

- ① 渡良瀬遊水地は、栃木・群馬・埼玉・茨城の4県にまたがる国内最大の遊水地
- ② 多様な動植物の生息地であり、H24年にラムサール条約湿地に登録されたほか、スカイダイビング、ウォータースポーツ、サイクリング等で多くの方が利用
- ③ R4年には、ラムサール条約湿地登録10周年を迎えるほか、とちぎ国体のボート競技会場として使用
- ④ 交通アクセスについては、レンタサイクルセンターまでコミュニティバスが運行しているほか、ウォッチングタワーやレンタルサイクルセンターの付近に駐車場が設置

(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	イベント時における移動手段の確保
当該地域での発展可能性	遊水地内の周遊性向上 環境に配慮した移動手段の導入
PR効果	国体開催に合わせた来場者へのPR
実現可能性	レンタルサイクルセンター～中の島の間は一般車両の通行禁止

6. 追加候補箇所 (3) 市街地 真岡市・真岡駅周辺

生活

産業

観光

公共交通

人口減少・少子高齢化

施設アクセス向上

自動車依存脱却

土地利用活用

工業団地活用

農業生産推進

特産品販売促進

中心市街地活性化

観光客増加

観光資源活用

交通円滑化

観光PR

公共交通空白・不便改善

公共交通維持

中山間地域

観光地

市街地

(1) 実験概要

- ① 主要拠点：真岡駅、久保記念観光文化交流館、真岡木綿会館、市役所
- ② 関係者：鉄道事業者、観光協会、各施設管理者
- ③ 想定車両：グリーンローモビリティ、小型バス
- ④ 想定時期：未定



(2) 背景

- ① 真岡駅は、真岡鐵道、民間路線バス、コミュニティバス、デマンド交通等が接続する交通結節点であり、真岡市の玄関口
- ② 真岡駅周辺では、行政施設、商業施設等の集積に加え、門前地区における観光交流機能の強化、台町地区におけるまちなか居住の整備等を推進
- ③ 中心市街地における活力再生、魅力向上等のためには、真岡駅、門前地区、台町地区等における周遊性向上が課題



(3) 選定のポイント

他地域への展開可能性	市街地における周遊性向上 市街地におけるにぎわいの創出 鉄道駅からのラストマイル対策
当該地域での発展可能性	MaaS（鉄道、バス、観光施設、商業施設等との連携）
PR効果	住民や鉄道利用者へのPR
実現可能性	コミュニティバス運行